

2019年4-6月期四半期別GDP速報（1次QE）公表に際しての
茂木経済財政政策担当大臣談話

2019年8月9日（金）

1. 本日公表した2019年4-6月期GDP速報では、実質成長率は、前期比プラス0.4%、年率に換算するとプラス1.8%と、3期連続のプラスとなった。

名目成長率は、前期比プラス0.4%、年率に換算するとプラス1.7%となり、名目GDPは557.8兆円と過去最高を更新した。

海外経済の減速などから外需はマイナスに寄与したものの、内需の柱である個人消費と設備投資は堅調に増加し、内需を中心とした緩やかな回復を示す結果となった。

2. 先行きについては、当面、海外経済の影響は残ると見られるものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

3. 政府としては、「骨太方針2019」及び「成長戦略実行計画」に基づき、潜在成長率の引上げによる成長力の強化に取り組むとともに、10月に予定されている消費税率の引上げを控え、経済運営に万全を期す。

（以上）